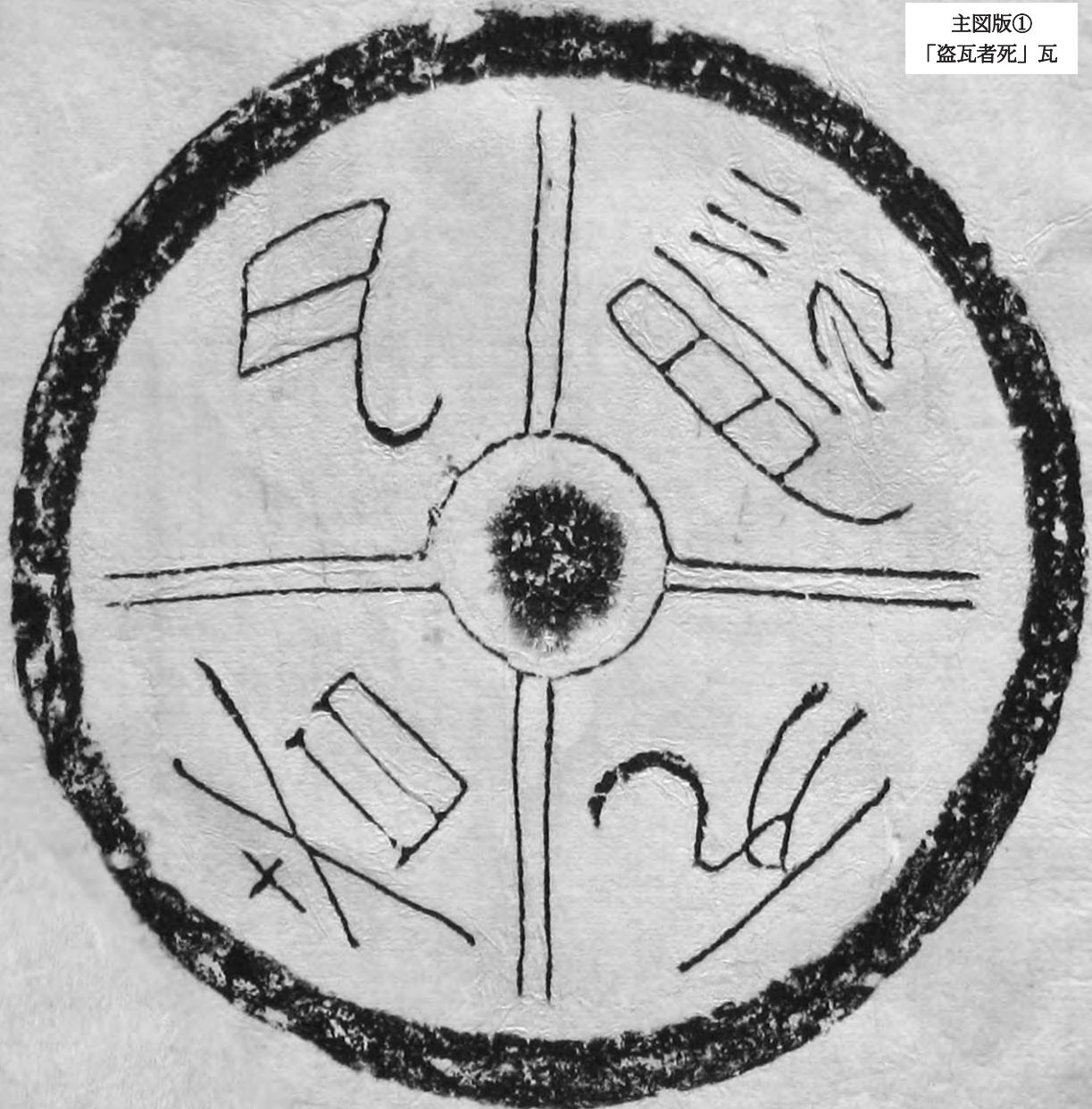


主図版①  
「盜瓦者死」瓦



図版② 「長樂未央」瓦



図版③ 「甘林」瓦



# 「秦漢時代の瓦当と磚文」

## ④「盜瓦者死」字瓦当（瓦を盗む者死す）

後漢時代

図版④ 「華倉」瓦



漢時代の瓦の文字は、大部分が篆書体を用いて制作されている。後漢時代の多くの碑文は、波磔の美しい「八分」と称される隸書体で書かれている。当時、篆書を使用することはやや少くなってきたが、石碑の碑額や印章等にも使用されていた。篆書体は、字形を多様な形に変えるに都合のいい特徴を備えている。篆書から発展した隸書は、横や左右に抑揚ある筆勢を具えた書体であるので瓦などの文字構成に使いにくい所がある。漢時代の瓦の文字の大部分は、篆書であるが八分に近い隸書を用いたものがある。主図版に示した「盜瓦者死」の四字瓦当は、見事な隸書である。八分の波磔などの抑揚は顯著でないが、横画などの終筆の払いに抑揚の一端を見ることが出来る。また「瓦」「死」字の終筆は字画が太く表現され隸書

の波磔的な筆勢を示している。こ

の瓦は、円を四分割した扇形を中心を下に円周側を上にして文字を左回りに布置している。大変珍しい瓦である。近年、非常に多種の瓦当が發見されてきたが、これと同治の瓦は目にしたことがない。

拓本で知られるのみである。図版④の「華倉」瓦当は西安の友人の所蔵である。これも完全な隸書体

瓦当であり、「華」字の終筆、「倉」字の左右の払いは、隸書の波磔的な抑揚を示し、非常に珍しい瓦当である。図版②「長樂未央」瓦・図版③「甘林」瓦も僅かではあるが、隸書の筆勢を部分的に示しているので参考に付した。

皆さんの忌憚のないご意見、ご感想をお聞かせください。

伊藤滋（書齋名・木鶴室）

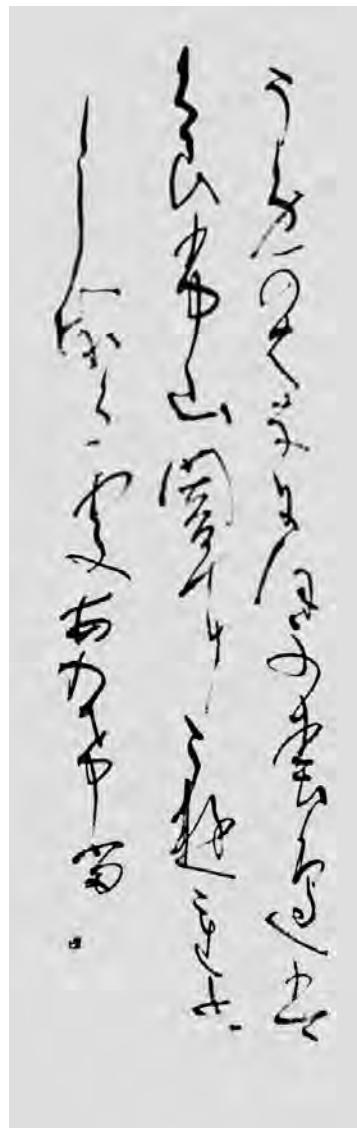
# 書道芸術院

## 平成の群像 (2017)

### 師の教え



奥田瑞舟



先生方、あと少し  
ご指導よろしくお願  
い申し上げます。

もうだいぶ前のことになりますが、「ご指導お願いします」「選定お願いします」という声が作品展の近づいた種谷扇舟教室に響きました。持参した作品を5人分積み上げて、順に先生の脇に座りお願いする。「選定」の時のピリッとした空気が部屋中に広がる。作品をめくる役は、カメラのシャッターのような眼をもつ先生の選定のタイミングをはかるのが大変。私たちの教室では辻元先生がこの役を果たしてください、選ぶのにも加わって下さった。選定を繰り返して、最終の1点になるまでは拝見する楽しがあり、また勉強にもなりました。

ある作品の冒頭の雪の字について、「この字は余程吟味して選んだのか」と聞かれ「すぐ漢字を考えて、字書で書体を調べました」と答えましたが、先生は「かな作

品を選んだ理由を説明された。「この作品が壁面に飾られていることを考えている。両側に並ぶのは線の強い漢字、そこにかならしいとか、この字が良いという選び方ではだめ、負けない強い線のこれを選んだ」との言葉に感銘を受けた。私も現在、「書道芸術」の審査をさせていただいているが、扇舟先生のシャッターを切るような瞬間のひらめきが重要なポイントだと思いながら、「しっかり書けている」「墨色が美しい」「構成が面白い」と一枚一枚を拝見しています。

ある作品の冒頭の雪の字について、「この字は余程吟味して選んだのか」と聞かれ「すぐ漢字を考えて、字書で書体を調べました」と答えましたが、先生は「かな作

ある日、社中展の選定で、種谷先生が作品を選んだ理由を説明された。

「この作品が壁面に飾られていることを考えている。両側に並ぶのは線の強い漢字、そこにかならしいとか、この字が良いという選び方ではだめ、負けない強い線のこれを選んだ」との言葉に感銘を受けた。私も現在、「書道芸術」の審査をさせていただいているが、扇舟先生のシャッターを切るような瞬間のひらめきが重要なポイントだと思いながら、「しっかり書けている」「墨色が美しい」「構成が面白い」と一枚一枚を拝見しています。

ある日、社中展の選定で、種谷先生が作品を選んだ理由を説明された。

「この作品が壁面に飾られていることを考えている。両側に並ぶのは線の強い漢字、そこにかならしいとか、この字が良いという選び方ではだめ、負けない強い線のこれを選んだ」との言葉に感銘を受けた。私も現在、「書道芸術」の審査をさせていただいているが、扇舟先生のシャッターを切るような瞬間のひらめきが重要なポイントだと思いながら、「しっかり書けている」「墨色が美しい」「構成が面白い」と一枚一枚を拝見しています。

ある日、社中展の選定で、種谷先生が作品を選んだ理由を説明された。

「この作品が壁面に飾られていることを考えている。両側に並ぶのは線の強い漢字、そこにかならしいとか、この字が良いという選び方ではだめ、負けない強い線のこれを選んだ」との言葉に感銘を受けた。私も現在、「書道芸術」の審査をさせていただいているが、扇舟先生のシャッターを切るような瞬間のひらめきが重要なポイントだと思いながら、「しっかり書けている」「墨色が美しい」「構成が面白い」と一枚一枚を拝見しています。

ある日、社中展の選定で、種谷先生が作品を選んだ理由を説明された。

「この作品が壁面に飾られていることを考えている。両側に並ぶのは線の強い漢字、そこにかならしいとか、この字が良いという選び方ではだめ、負けない強い線のこれを選んだ」との言葉に感銘を受けた。私も現在、「書道芸術」の審査をさせていただいているが、扇舟先生のシャッターを切るような瞬間のひらめきが重要なポイントだと思いながら、「しっかり書けている」「墨色が美しい」「構成が面白い」と一枚一枚を拝見しています。

ある日、社中展の選定で、種谷先生が作品を選んだ理由を説明された。

「この作品が壁面に飾られていることを考えている。両側に並ぶのは線の強い漢字、そこにかならしいとか、この字が良いという選び方ではだめ、負けない強い線のこれを選んだ」との言葉に感銘を受けた。私も現在、「書道芸術」の審査をさせていただいているが、扇舟先生のシャッターを切るような瞬間のひらめきが重要なポイントだと思いながら、「しっかり書けている」「墨色が美しい」「構成が面白い」と一枚一枚を拝見しています。

ある日、社中展の選定で、種谷先生が作品を選んだ理由を説明された。

「この作品が壁面に飾られていることを考えている。両側に並ぶのは線の強い漢字、そこにかならしいとか、この字が良いという選び方ではだめ、負けない強い線のこれを選んだ」との言葉に感銘を受けた。私も現在、「書道芸術」の審査をさせていただいているが、扇舟先生のシャッターを切るような瞬間のひらめきが重要なポイントだと思いながら、「しっかり書けている」「墨色が美しい」「構成が面白い」と一枚一枚を拝見しています。

# 書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

## 第70回記念書道芸術院役員作品巡回展 南関東総局展 盛大に開催

創立70周年を迎えた書道芸術院は2月の本展を盛況の裡に終了し、記念事業のメイン事業として全国13の総支局を巡回する「役員作品巡回展」がスタートした。トップは千葉県・茨城県をエリアとする南関東総局展で3月7～12日、千葉県立美術館第5・6室を使用し、見応えある充実した展覧となつた。

全国を巡回する役員作品は財団法人の顧問・理事・監事・評議員と参事会で漢字から前衛書に至る5部門の代表的な作品で多彩で観るものを見きつけ好評であつた。

地元南関東総局作品は470点余を数え、70回展出品作を再展示されたが、また違った印象を与えて見応えある充実ぶりであった。

11日午後には美術館講堂にて「書道芸術院の書」と題して理事長辻元大雲、担当理事の小竹石雲常務理事、尾形澄神監事が講演、理事長のスライドによる「第70回展主要作品」を取り上げた解説を中心にして盛況であった。講演冒頭には6年前の東日本大震災犠牲者に向けて黙祷も挙げられた。夕刻にはホテルポートプラザちば

にて祝賀懇親会が150名余の参加者により賑やかに開催された。



南関東 講堂で作品解説会

## 同 東北総局展 仙台にて開催

南関東総局展に続き3月24日～29日、仙台メディアテークを会場に、全国巡回役員作品展及び東北総局展650余点の出品により盛大に開催された。

24日初日には本部から理事長辻元大雲、小竹石雲常務理事が開幕式に参列、テープカットに続き作品解説を行つた。地元からはご来賓として毎日新聞社仙台支局長永海俊氏にご臨席いただきご祝辞もいただいた。

26日には会場にて担当理事の下谷洋子常務理事、種谷萬城理事により「書道芸術院の書」と題し作品解説を含め講演が行われた。午後から勝山館にてご来賓をお招きして祝賀会が盛大に行われた。

### 今後の巡回展日程（前半）

- ・3月31日～4月3日 北関東総局展
- ・高崎シティギャラリー
- ・4月7日～10日 山陽支局展



東北 会場で作品解説会

## 第163回全日本書道連盟理事会

3月9日定例理事会が開催され以下の事項が審議された。

### ・書写・書道教育推進協議会の状況

2月15日公表の小・中学校の次期指導要領案について。小1・2年の書道指導が大きく前進した内容が報告された。

### ・日本書道ユネスコ登録推進協議会の状況報告

国指定文化財以外からの申請団体（書道、茶道、華道など）からの登録への道が開けてきたことが大きく評価される。

### ・改選（6月12日総会にて決定）

### ・夏期書道大学講座 8月4～6日



お喜びの青柳先生

講師等は未定。  
防府市地域交流センター  
・4月27日～30日 九州支局展  
大分県立美術館  
・7月以降11月まで各地にて開催。  
10月18日～25日 ウィーン展

辻元大雲出席。  
3月16日午後開催、書道代表として

・日中交正常化45周年記念事業

「漢字三千年展」昨年10月に東京富士美術館で開催され、8万人超の参觀者が盛況であった。今後左記の通り開催される。是非ご高覧を。（一般1300円）

・京都展 3月24日～4月21日

京都市美術館

・新潟展 4月29日～6月11日

新潟県立美術館

・宮城展 6月24日～8月11日

東北歴史博物館

・群馬展 8月20日～9月10日

高崎シティギャラリー

\*展覧会図録解説が充実、購読を。

青柳明華さん毎日展審査会員

### 昇格祝賀会盛況に

3年に一度行われる特別選考で今回大字書部審査会員に昇格され、祝賀会が3月20日、松本市内のホテルにて100名余の参加者により盛大に開催された。名余の参加者により盛大に開催された。院から下谷洋子常務理事が理事長の祝辞を披露し祝意を表した。

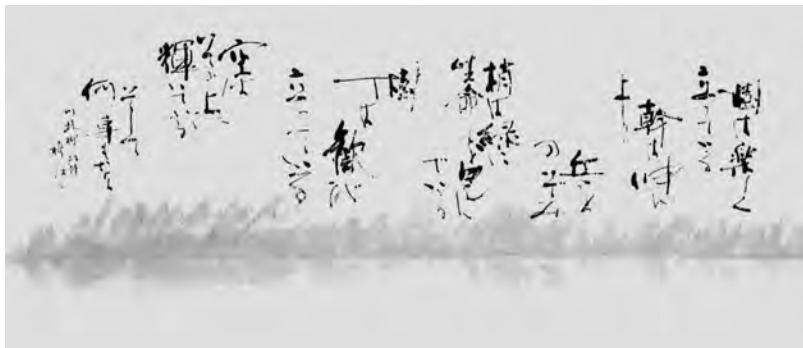
3月31日には、青柳明華さん毎日展審査会員として昇格祝賀会が開催された。この祝賀会では、青柳明華さんより昇格祝辞が読み上げられ、多くの来賓が祝賀会に出席した。また、来賓による祝賀挨拶や、昇格祝賀会の開催目的や意義についての説明が行われた。祝賀会は和やかな雰囲気で進行し、多くの来賓が青柳明華さんを祝福する声が響いた。

# 現代詩文書 (一)

山田梓江

# 篆刻・刻字 (一)

清水翠径



第6回 山口県書を楽しむ人たち展 川路柳紅詩 (78×180) 山田梓江書

うになってきた。日常は雑用に追われゆつくり腰を据えて作品に向かう事がない半面、少しの時が癒しの時もあり、私は私」と開き直って書作を楽しめるよ

未だに描いている想いと作品が一致することはめったになく、我ながら残念ではあるが、負け惜しみのように「私は私」と開き直って書作を楽しめるよ

振り返ってみると、その時々で足跡を付けてきたと思うので、若い人は強い体力と柔らかな脳で思い切り想いを作品にぶつけてほしい。さらにキャリアを重ねたら個性を作り出してほしい。個性が生まれたら、しっかりと楽しさを人に伝えてゆくことも大事だと思う。

今回は1回目の掲載なので楽しく書作出来た作品にした。写真では見えないが、詩の美しさ、静けさ、樹々のささやきなどを表現したく、先ず緑色の墨を淡く薄めて水際を描き、その上に詩を置き、下部に逆方向から左手で、上部の詩が湖面に映し出されるように書いてみた。このような作品は、1~2枚書くのが限度だが、何事も楽しく挑戦することにより、何かが生まれることによる気がある。

# 篆刻・刻字 (一)

清水翠径



「生者必滅 会者常離」平成28年院秋季展品

清水翠径刻

昭和55年10月22日、故香川峰雲先生ご指導のもと、重陽会長野支部として、刻字書道の研鑽につとめておりました。峰雲先生が他界され3年を経過、この間日進月歩の書道界にあって、より深くより充実を計ろうと、

顧問の恩地春洋先生のご逝去に遭遇、人の世の儻さを思い知らされました。香川峰雲先生、長揚石先生、種谷扇舟先生、錚々たる諸先生方ご指導のもと、勉学に励ませていただけた幸せを思い平成28年書道芸術院秋季展の出品作品、「生者必滅、会者常離」を自室に掲示し人生の指針としております。

この度、院より21世紀の書—私の主張—書稿依頼をいただき、9月まで6ヶ月に亘り担当することになりました。馴染みの薄い、刻字作品製作の初步を提示させていただき、勉強の一助になればと思い筆をとらせいただきます。我田引水の分はご容赦下さい。

「南無枯葉」



佐久間幸扇

書道芸術院春華賞



現代詩文書部  
佐久間幸扇

第70回記念の書道芸術院展において、最高の「書道芸術院春華賞」を戴き心より御礼申し上げます。題材選びに迷い、この句に出会った時脳裏に浮かんだのは短編小説家オードリーハリディの「最後の一葉」でした。雪

混じりの風雨の中、人の生死をも左右する一枚の枯葉、その緊張感を思いつつ出来たのがこの作品です。  
勿論、句の作者の意図は知らず私の勝手な感情移入ですが。  
さて、立派すぎる賞を戴きどうしたものがと考えながら東京都美術館の物故者展に足を運んだ時、最初に目にいったのが種谷扇舟先生の「前向き」と書かれた作品でした。これが答えるのだと妙に納得し気持ちが軽くなりました。

種谷扇舟先生、辻元大雲先生、お世話になつた先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

# 第70回記念 書道芸術院展

〈1〉

書道芸術院大賞



銭谷 雪蘭



現代詩文書部  
銭谷雪蘭

この度は、記念すべき第70回書道芸術院展におきまして、栄える大賞を頂き、誠にありがとうございます。  
ご指導頂きました坂本素雪先生、書道芸術院の諸先生方、共に書の道を歩んできた書友の皆様、支えてくれた家族に対し、感謝の気持ちでいっぱいです。素晴らしい方々に恵まれて書ができる幸運を今、改めてかみしめております。

今回は大好きな詩人、中原中也の詩との出会いもまた幸運だったよう思います。書いているうちに、さまざまと詩の情景が浮かんできましたからです。素材が持つイメージを表現するのは本当に難しいのですが、自分がどんな世界観を持ち、書で何をどう表現したいのか、これからも摸索し続けたいと思います。  
今後ともご指導の程、よろしくお願ひ申し上げます。

「王蒙詩」



中尾  
琴麗

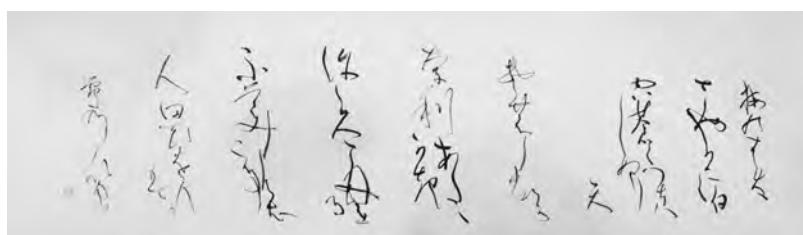
## 第70回展記念賞

— 審査会員 —



「大山雅由の句」

浅利 祥紫



「梅の花」

松村くに子



「steady」

後藤 法明

「バイブルーション」

真下 京子



書道芸術院準大賞

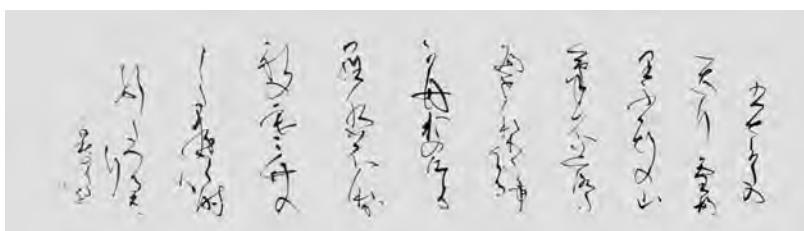
「春日憶李白」



「論語学而篇」

加藤 賸流

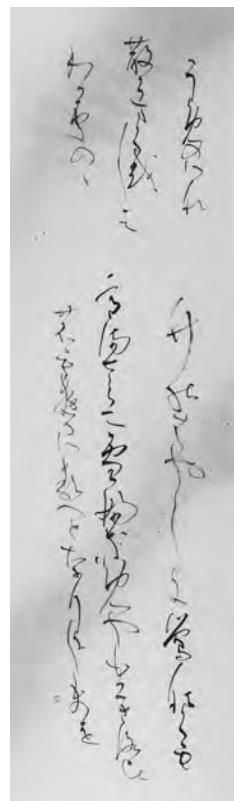
「一森 映泉」



「ひさかたの」

西巻サト子

「梅の花」



「プログレス」



大和 愛香

高橋 正子

## 第70回展記念賞

### — 審査会員候補 —

Sparkle



「谷川俊太郎の詩」

阿部 珠光



後藤  
美希



「雨の街角」

白井 真理

「未来」



高橋  
清琳



「書譜」

早川 恵風

白雪紅梅賞

白樂天詩選  
官人幽閒三行賦夜遊驛下支穩騎合且山  
走別岐驛裏松雲迎舍直船初暮沙濱月  
照唯靜十蓋酒時間眉開少輕着馬限級天  
元有境餘晚冷臺臥生門度追麗治平權乘  
南何聲琴管上月休無信朝長對孤獨陰和

「贈駕部吳郎中七兄」

渋谷 愛華

「水の星」

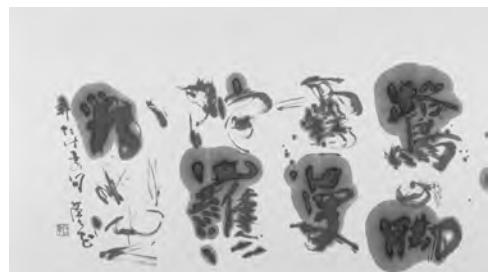


小川 香燐

「蘆葦聊為」

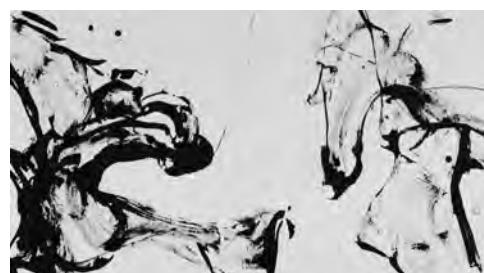


板橋 雅邦



「雪曼陀羅」

坂本 蓉花



「児を抱きて」

佐藤 紅茜

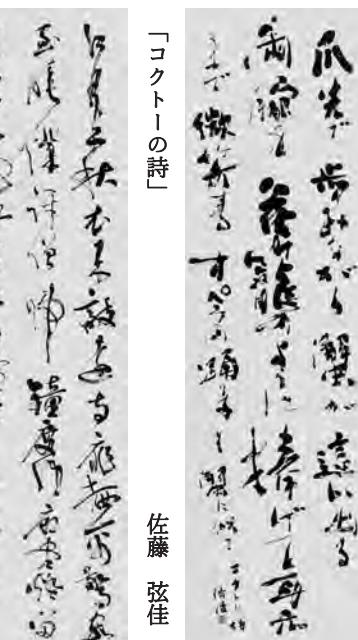
「搖落」



「江月上秋衣」

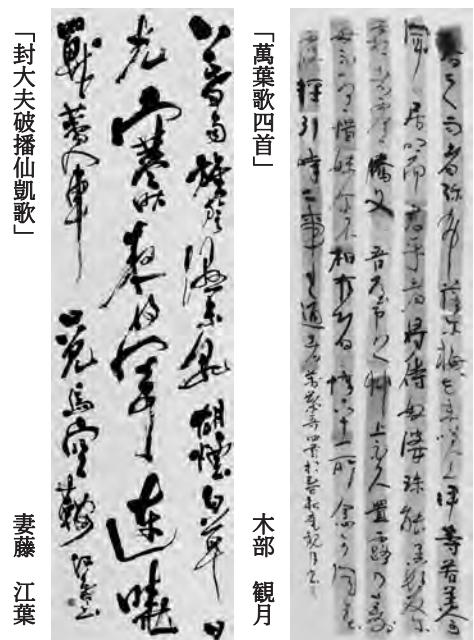
富原 扇水

山崎 雲外



「コクトーの詩」

佐藤 弦佳



木部 観月

「萬葉歌四首」

## 牛 櫟造像記

(北魏) ①

II (半紙普通判・縦使用) 左記の法帖より何文字臨書してもよい。

## 特別研究部臨書課題

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由)

当該古典の左記掲載部分以外も可。



## &lt;解説&gt;

「牛櫟造像記」は、別名

「長樂王丘穆陵亮夫人尉遲造像記」といい、龍門十

品のひとつ。北魏の洛陽遷都(493)後2年、北魏・太和19年(495)の刻石で、最

古の紀年をもつ造像記である。これは丘穆陵亮の夫

人尉遲が、亡くなった息子牛櫟の冥福を祈るために、

弥勒像一体を作り、願文を刻したものである。力強く

角張った方勢(方筆)の切

れ味、鋭い書風は、北魏時代の楷書のひとつ典型を示している。清の康有為は

『廣芸舟双楫』に「寸字、方筆の碑、龍門をもって美となす。牛櫟造像記は、体

は方にして筆厚く、画は平らかにして豎直。よろしく先づ之を学ぶべし」と述べ、龍門造像記を学ぶ初学者の選ぶべき名品としている。

縦66×横335センチ。1行

16字、7行、全102字。(現在)

河南省洛陽龍門山の古陽洞北壁上層部にある。

太和十九年十一月。使持節司/空公長樂王丘/穆陵亮夫人尉(遲)。

掲載図版75%縮小

(編集部)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨(押印のみも可)

# 古筆鑑賞

(157)

## 秋萩帖

### (伝) 小野道風筆

①

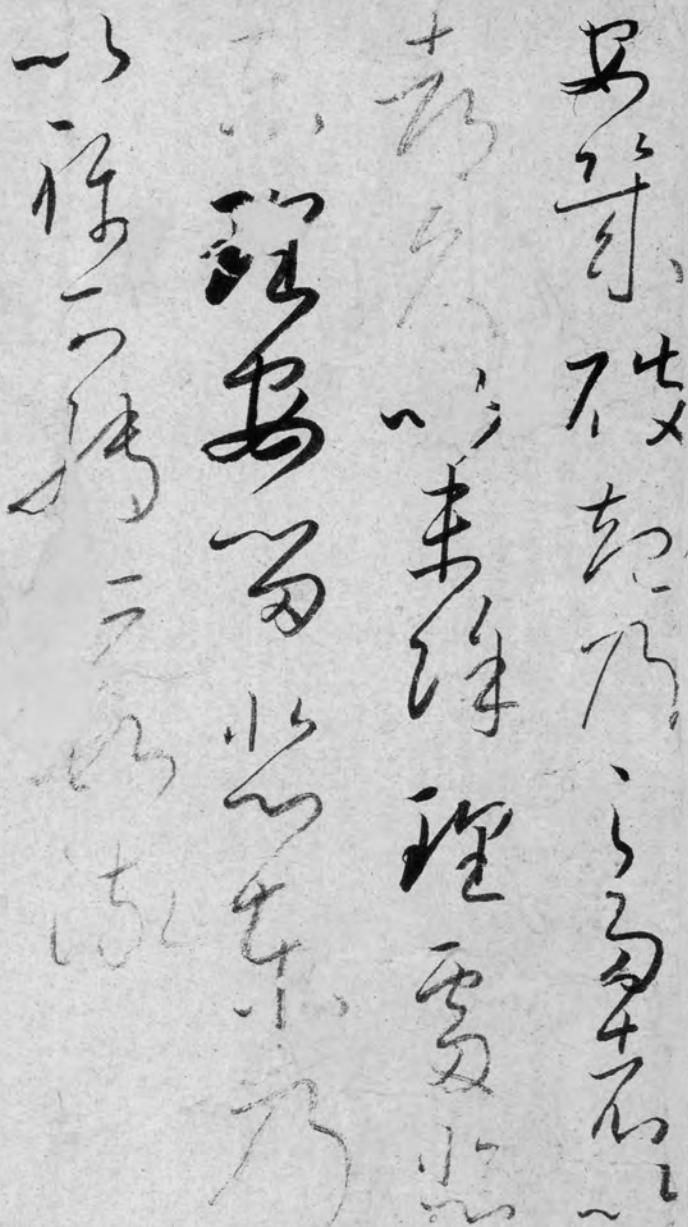
\*落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

よみ  
あきはぎのしたばい(ろ)  
安樂(あらう)起乃(おきの)之多(のぞ)者(しやく)以(い)脱(だつ)方(ほう)  
づく(づく)以(い)未(ま)齡(れい)理(り)處(しょ)  
東理(とうり)安留(あんりゆ)悲(ひ)東(とう)  
とりあるひとの(ひとの)ねがてに(ねがてに)  
いねがてに(ねがてに)

「解説」  
「秋萩帖」は、平安時代の草仮名の代表的な遺品である。色変わりの美しい染紙21枚が交用された全長8メートルあまりの巻物(巻子本)である。  
第1紙(左図版)は、薄藍色の漉き紙に和歌2首が草仮名で書かれており、この巻頭の「安幾破起乃」の1首(『古今和歌集』巻第四・秋歌上 読み人知らず)の書き出しにち

なん、「秋萩帖」と呼ばれている。第2紙以下は、「淮南鴻烈兵略(かんかく)間詰第廿」(「淮南子」)を書写した1巻の裏面を転用したものである。料紙は白紙のほかに、藍・黄・茶・緑などの漉き染め・浸け染め、引き染め紙が用いられている。ここには16紙までに和歌46首が書写され、16紙目の途中から巻末までは王羲之の尺牘(書状)11通(57行)が臨書されている。

(編集部)



(東京国立博物館蔵)

※掲載図版原寸

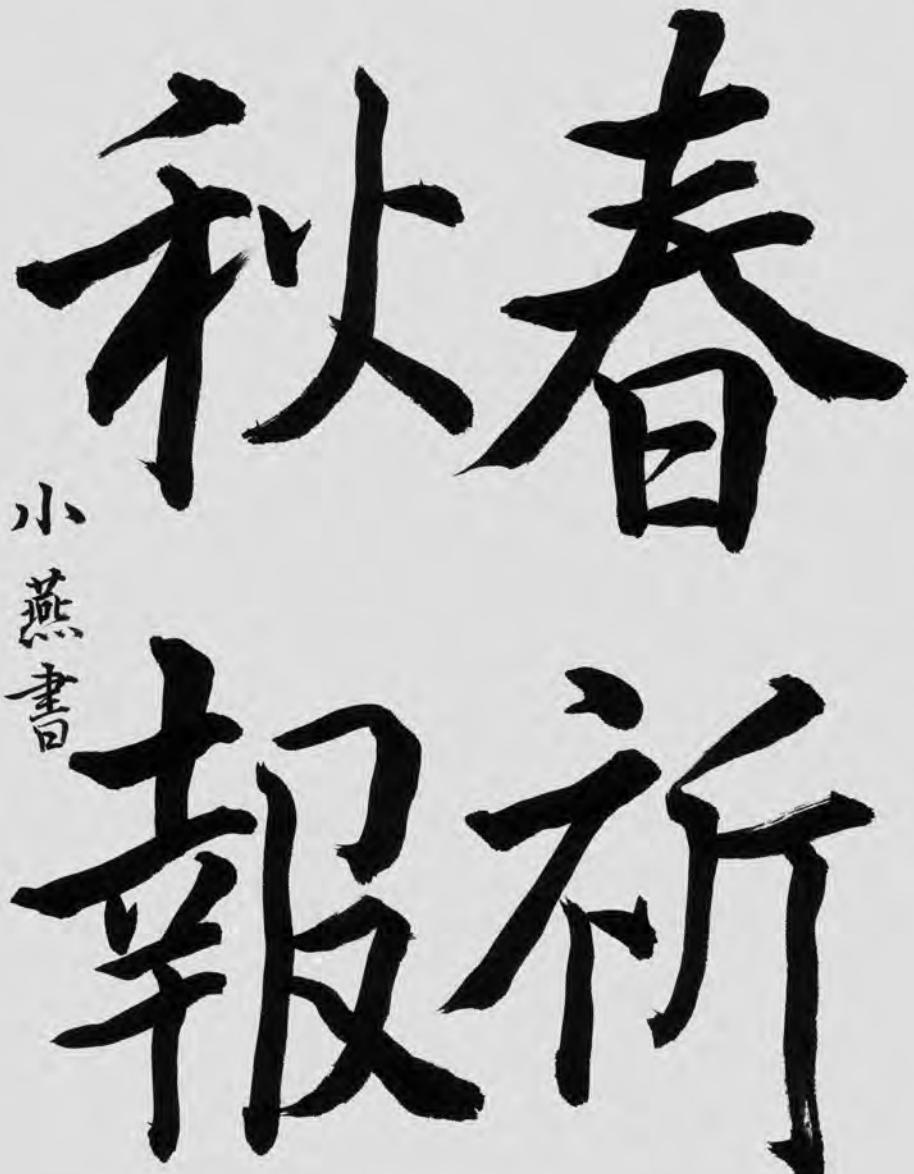
習い方解説 (一)

稻垣 小燕

春祈秋報  
〔周礼疏〕  
(春に祈れば秋に報ず)

私の師・川崎白雲(梅村)先生  
は、貫名松翁の書を崇拜されていました。6カ月間担当させていた  
だくにあたり、初回は師の書法、書風を思い起こし表現しました。

松翁の線は極めて鍊度が高く、枯淡の響きを有していると言われています。筆を矯めながら書くという含み味のある松翁筆の「左繡叙」の線質がこの語の表現に適していると考へ、筆は中鋒の兼毫を用い、起筆、終筆はあたりを強く、右払いも筆先をあてながらゆすりを入れ書しました。



春祈秋報 よみ (春に祈れば秋に報ず)

書体=自由

習い方解説 (一)

大野祥雲

春陽開動  
(しんようかいかう)  
(古樂府)

春の神が発動する

「春」横画(三)の長さと間隔に注意。左右の払いは伸びやかに。日は調和よく取める。

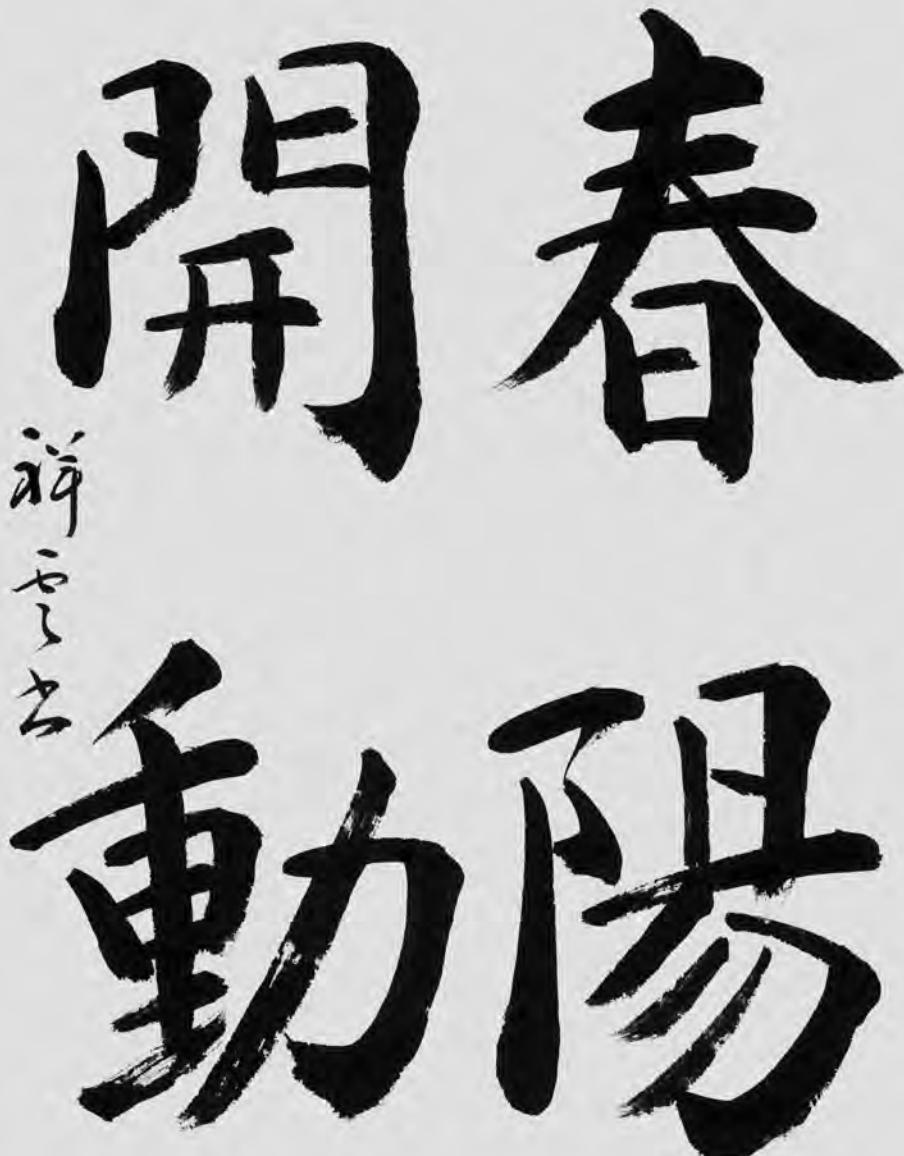
「陽」ノは3画に数え、スマートに。易は古典によくある構成で横画を1画省略。

「開」門は相対する2本の縦画の長短を考え、向勢ぎみに書く。広くなつたふところに开をゆとりをもつて収める。

「動」偏は右上がりの横画が多く、書く。旁は画数の少ない力だが、偏を支えるため少し下げて力強く運筆。

春陽開動 よみ(春陽開動す)

書体=楷書



かな規定 初段以上 【五月十五日締め切り】 用紙 半紙普通判（料紙可）

大辻多希子選書

習い方解説(一)

大辻 多希子

春暖はるがすみたちなへだてそ花はなざかり  
みてだにあかぬやま山やまのむくひを

17  
蒙古文

丁巳

今月より6ヶ月間担当します。  
かな作品、半紙の基本的な4行構成から始めたいと思います。すでに古筆の高野切第三種を臨書してきた段位の課題ですが、創作は初步の方もいると思います。慣れはない人は、まず古筆の2行、または2行半を4行に書いてみましょう。

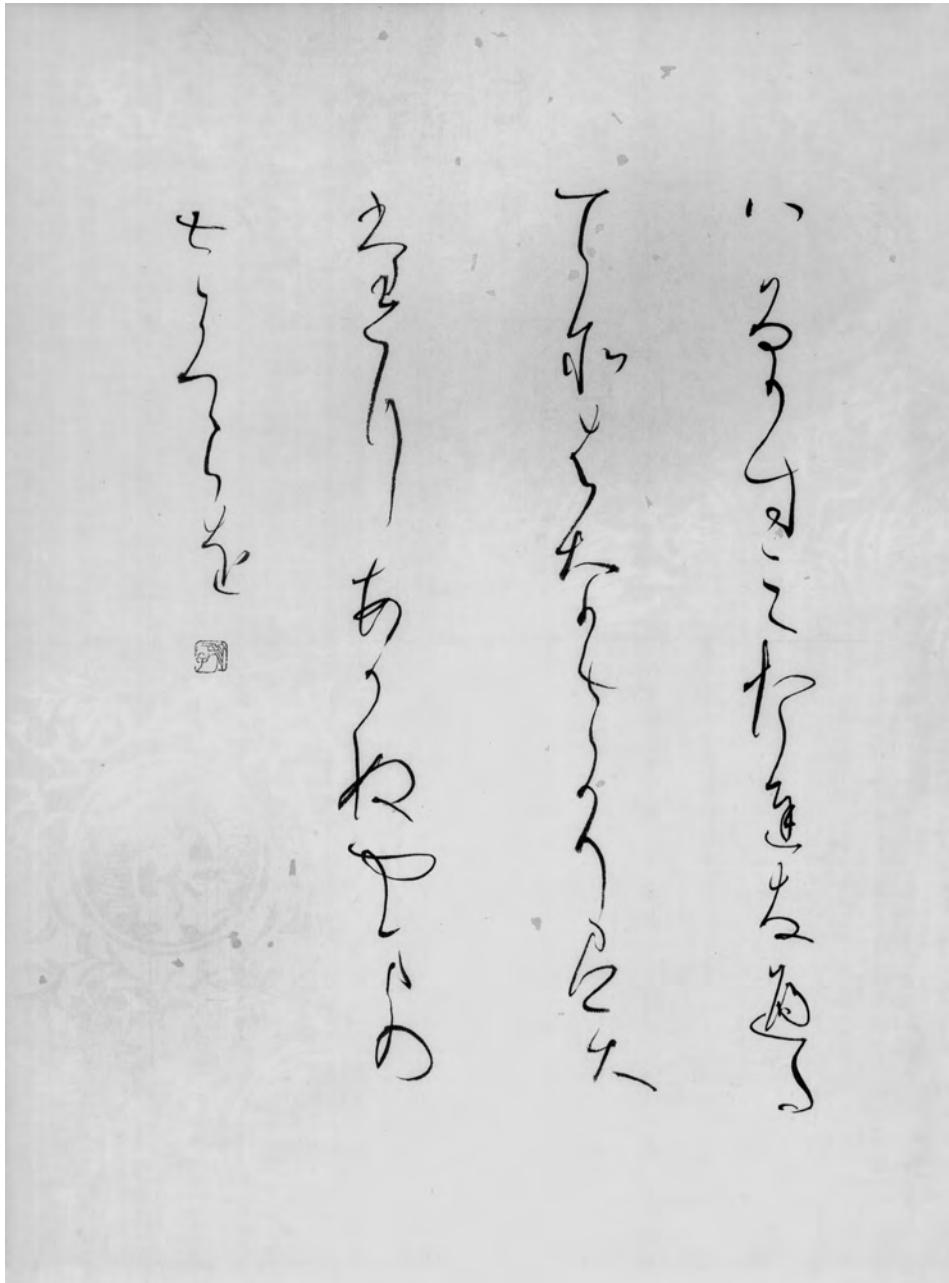
古筆には、お手本となる連綿の美しい箇所や、漢字を交えた放ち書きにより構成された歌がたくさんあります。身につくまで何度も練習をし、リズムを掴むと良いと思います。

まだ創作の経験のない人も勇気を出して、ご自分の作品創りを目指して欲しいと思います。

よみ方 春霞(八る可す三)たち(遅)なへ(遍)だ(多)てそ(所)花(者な)さか(可)り

春霞(八る可すニ)たち(遅なへ(遍)だ(多)てそ(所)花(者)な(さ)  
み(見)て(天)だ(堂)に(耳)あか(可)ぬ山(や万)のさく(久)らを

創作

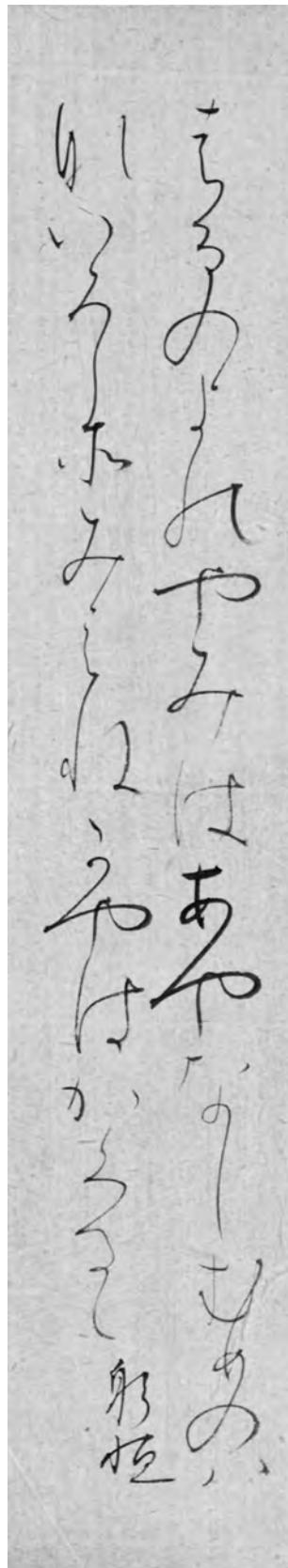


かな規定 秀級以下 【五月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

◎今回より課題を「粘葉本和漢朗詠集」に変更いたします。

掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集  
(掲載写真拡大110%)



### 習い方解説 (一)

奥田瑞舟

かな条幅規定【五月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

奥田瑞舟選書

春ふかく照りの久しき八重桜  
花は赤しとこころ傷みつ

(中村三郎)

文字の選択は大切な課題です。

今回は、1行目行頭の春を漢字に、  
2行目行頭の花を変体がなにしました。

参考手本のままでなく、1字でも吟味してえてみましょう。

かな作品は墨色が大切です。まつ黒も薄すぎも評価は低くなります。  
作品が乾いてから下げる、眺めて下さい。印を忘れずに。

創作



よみ方

春ふかく(可)く(久)照りの久しき八重桜  
花(者那)は(八)赤(あか)しと(登)ここ(へ)る(路)傷(い多)みつ

\*たて形式に限る

習い方解説 (一)

辻元大雲



雲出争爲天下雨 日晴低見海中山  
(雲出でて争い為す天下の雨、日晴れて低く見る海中の山)

書体 = 自由



漢字条幅規定 秀級以下 [五月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

牧 泰濤選書

習い方解説 (一)

牧 泰濤

「春夏秋冬の花木に興味を覚え、片雲の静心で行雲流水に対する」

という意。遊びたい心境です。

「四」「一」「心」の横広い字がある難しい題材です。前行9字の構成でもいいかも。でも敢えて8字にしました。一と四の間の6字の大小の工夫が条幅2行章法の練習になります。行草書体で少々速書気味ですが、筆圧を持って鍛錬を。

書体書風はもとより用具用材にも気を配って取り組んでください。書体は自由ですので月例課題を楷行草隸書位の書き分けを試してみてはいかがでしょう。

\*たて形式に限る

今回から担当します。14字2行書きを4回、20字2行と横書き2回です。行草書を中心としました。

今月号は平易な単体行書です。羊毛中鋒筆で、やや太めに若干の潤渴大小の変化を取り入れています。

四時逸興花木一片間心對水雲  
(四時の逸興花木を看、一片の間心に水雲に対す。)

習い方解説(一)

川島舟錦

ほくの人生の主人とは  
誰でもないほく自身なん  
だから誰からも誘惑され  
ない——誰からも強迫  
されない舟錦書

ジョンレノン「イマジン」の意味を理解し、わかりやすく訳した新井満著『イマジン』の中から、ペン字課題をさがして練習してみたいと思います。

①自主独立した自由な個人が連帯しながら、②国境をなくし戦争をなくし、③財産を共有することによって、平和な世界を作ろう！そのための第一歩がイマジン即ち“想像”なのだ。  
「なぜ、戦争をしてはいけないのか」「いのちの敵だから。戦争は、いのちのバトンリレーを断ち切る敵だから…」「なぜ、平和でなければいけないのか」「いのちの味方だから。平和は、いのちのバトンリレーを応援してくれる味方だから…」  
世界中の人々が、喧嘩せず、互いに愛し、尊敬しあい、いのちを輝かせながら幸せに生きることができますように…。オノヨーロさんとの対談も興味深い本。

用紙＝はがきの大きさ(14×10cm)、白色のもの、黒インク使用のこと

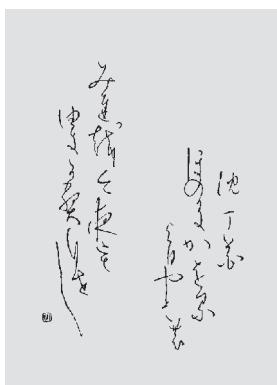
書体＝自由

※落款(自分の名前)を必ず入れる。

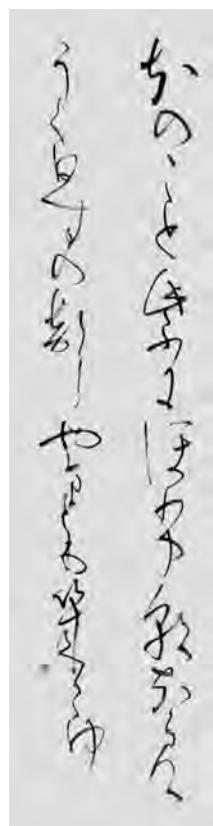
今月の

ホープ作品  
各部総評 NO. 670

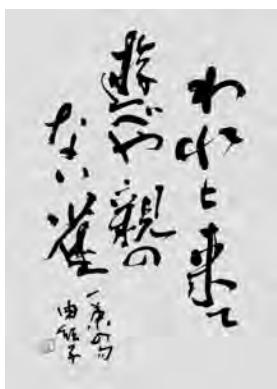
かな部 師範 近藤 淑子  
流麗なかなでも、骨格がないと  
深みがない。そのためか豊かで悠然として印象的。  
◎かな部總評 個性的な作品は少  
なかつたが、全体的にはよく出来  
ていた。漢字で始まる場合は墨量  
を控え目にするとよい。(洋子評)



漢字条幅部 師範 井ノ口春峰  
歯切れのよい筆致で通貫よくま  
とまりある作。安定感ある字形で  
落ち着く作。大小の変化が欲しい。  
◎漢字条幅部總評 上級20字表現  
はやや難しかったか。平凡作多し。  
下級も含め大小潤滑の変化など意  
欲的な取り組みを。(大雪評)



かな条幅部 師範 萩原 繼子  
穏やかな墨色での控え目の書き  
ぶりが格調を高くしている。作者  
の美意識の高さが伺えて好ましい。



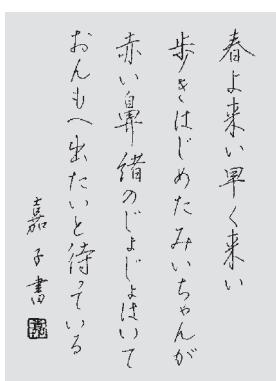
現代詩文書部 特選 清水由紀子

鍛錬された柔らかな運筆による  
線と漢字、仮名のみごとな調和で  
格調の高い作品に仕上がっている。  
◎現代詩文書部總評 素材の選び  
方と表現の工夫が多く見られ、向  
上が見える。(弄石評)



前衛書部 特選 高橋 蘭花

第一印象で鮮烈さを感じる。渴  
筆細線がこの觀をより強化させ、  
創意明快な作品。  
◎前衛書部總評 用紙の改良を感  
じたが制作意図に自意識足りず見た目  
に拘り過ぎの作品多く残念。(慧香評)



漢字部 師範 田中 岳舟  
柔毫筆による変化ある渴筆が効  
果的。線に冴えがあり表情豊かで  
上質。余白も美しく明るい。  
◎漢字部總評 古典を背後に感じ  
て欲しい。校字を丁寧に。(萬城評)



漢字部 師範 田中 岳舟  
柔毫筆による変化ある渴筆が効  
果的。線に冴えがあり表情豊かで  
上質。余白も美しく明るい。  
◎漢字部總評 古典を背後に感じ  
て欲しい。校字を丁寧に。(萬城評)

ペン字部 師範 石橋 嘉子  
丁寧な運筆に流れも加味され、  
布置まで統一感のある美しい作品  
です。完成度高く温雅さ抜群。  
◎ペン字部總評 全体的にそれぞ  
れの個性を生かした行書の良い作  
品が多く大変良かつた。誤字もあ  
り、益々の研鑽を望む。(和楓評)

# 今月の

## 特別研究部優秀作品(特選)



東平絹子臨

175×55cm

臨書

(森地)

東平絹子「曹全碑」

◆じっくりと息を凝らして最後まで一貫したりズムで書かれている。味わい深く変化に富む線質が魅力。

(龍雲評)

◆着実、安定した筆致で原帖の特徴をよく把握している。全体構成も無理なく模範的な臨書作。

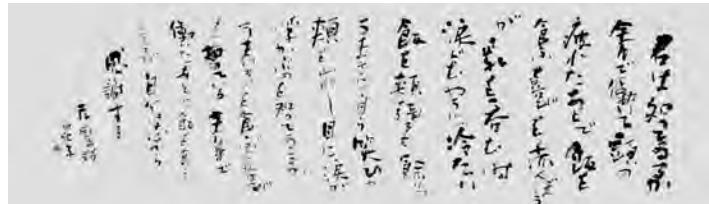
(大雲評)

◆多字数の臨書、原帖の特徴を良く捉え、凜として整然と、落款までの精神力の強さに感服しました。

(多希子評)

現代詩文書

(A I) 清水由紀子



清水由紀子書

54×180cm

◆鑑賞者的心を和ませる不思議な魅力のある作品に仕上っている。楽しみながら書かれたか? 顔が緩む。

(龍雲評)

◆素紙の羅紋箋を用い、濃い目の墨で浮沈のリズム良く、中間の渴筆部分が程良く作品を明りくしている。

(多希子評)

◆味わい深い線と、工夫を凝らした文字造形が紙面に楽しいリズム感を奏でている。

(紅瑠評)

◆リズムに乗り書かれている。渴筆部分にもう少し変化が有れば更に景色の有る作品になると 思います。

(多希子評)

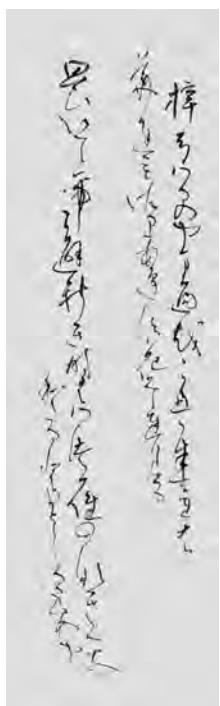
◆和歌2首を2集団に構成し、歯切れよい筆致がリズムを生み、爽快な作。もう少し線を整理したい。

(大雲評)

◆安定したリズムで坦々と書き進められているが、じっくり鑑賞するとじんわりと心に響く味がある。

(龍雲評)

根本雅子書



172×53.5cm

「元麿詩」

かな (高崎) 根本雅子「梓弓」

◆八分隸の特徴をよく理解した着実な臨書作。骨格のしつかりした線が見る者に安心感を与える。

(紅瑠評)

◆多字数の臨書、原帖の特徴を良く捉え、凜として整然と、落款までの精神力の強さに感服しました。

(多希子評)

前衛書

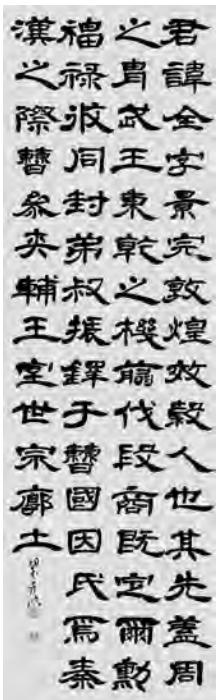
(蒼風) 笹木蒼風 「あこがれ」



180×60cm

臨書 (墨宣会)

小林翠芳



176×52.5cm

小林翠芳臨

「曹全碑」

- ◆淡墨ながら、ダイナミックな表現が気迫に満ち躍動している。潤渴緩急の変化が見事な作品。
- ◆大胆な運筆がスケールの大きさを出現させ、潤渴の変化と飛墨が効果を發揮している。

(大雲評)

- ◆淡墨の滲みを効かして紙面に濃淡や潤渴の変化がある作品になつた。円運動によって広がりを感じる。
- ◆躍动感に溢れた運筆に圧倒されます。大きな動きの中の余白、上段と下段の構成の変化が楽しい作品。

(多希子評)

- ◆淡墨ながら、ダイナミックな表現が気迫に満ち躍動している。潤渴緩急の変化が見事な作品。
- ◆淡墨の滲みを効かして紙面に濃淡や潤渴の変化がある作品になつた。円運動によって広がりを感じる。

(紅瑠評)

- ◆淡墨の滲みを効かして紙面に濃淡や潤渴の変化がある作品になつた。円運動によって広がりを感じる。
- ◆躍动感に溢れた運筆に圧倒されます。大きな動きの中の余白、上段と下段の構成の変化が楽しい作品。

(龍雲評)

漢字 (天雲) 江本興舟 「五言二句」



180×60cm

- ◆豪快な動きで迫力を感じる作品になっている。もう少し力の抜くところがあるともっと変化がついた。
- ◆書き出しからぐいぐいと力強く運筆し、スケールの大きな作。
- ◆2行目上部やや不安定か。更に努力を。

(龍雲評)

- ◆2×6尺に草書10字。大胆な筆致で躍动感があふれる線質。
- ◆鍛練された巧みな筆致。運腕大きくダイナミックに明るい爽快感のある作品。太細の調和が美しい。
- ◆2行目上部やや不安定か。更に努力を。

(紅瑠評)

創作の部 (54点)

漢字 17点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 3点

現代詩 27点

漢字 24点

かな 3点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

前衛 22点

漢字 24点

かな 5点

現代 20点

篆刻 10点

漢字研究部  
(曹全碑)

選評 稲垣小燕

今月のホープ作品



穢貝清耀

漢字研究部 総評

氣脈一貫し、特徴をよく捉えて書かれています。観察力が鋭く、線質に深さを感じられる作品に仕上っています。更なる研鑽を積んでいかれることを期待します。

◎漢字研究部 総評

隸書を学ぶ上で必須の曹全碑です。均齊かつ流麗な字形は漢碑の中でも際立った存在です。全体を通していつも感じることは、非常に感銘を受ける作品がある反面、誤字も多く見受けられます。慎重に、丁寧に臨書する姿勢を養ってください。



明信 琴糸紫翔  
惠代 燐乃扇

永青則景美照  
篁藍子燐保隅

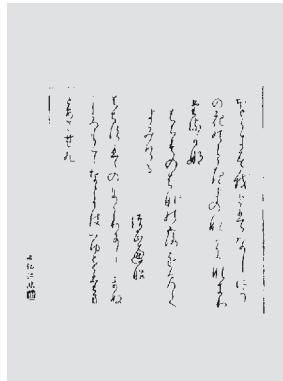
良正紅勝友螢香  
子美雨子里江

竹菊妙裕惠紅  
鳳枝邨子仙霞

かな研究部  
(関戸本古今和歌集)

選評 松村くに子

今月のホープ作品



大和由紀江

**かな研究部 特選 大和由紀江**  
緩急自在な運筆、墨色の変化、特に、強くて張りのある線の特徴を良くとらえて います。細部まで気持ちの入った見事な作品となりました。

正た上洞正詢玉水紅北澄泉一大青さ遊生秀白も春翠生大玉己琇  
華か泉書華扇川海風原春会阪葦峰つ雲大水嶺く汀柳大阪松未  
選阪井菟苑ま仙川翠草く村だ香宣月韻橋阪舟阪月橋

書

展

## 「高真会前衛書展」

を観て

田子白嶺

会期＝平成29年2月5日（日）

～12日（日）

会場＝群馬セキスイビル催場

眞下京子先生主宰の高真会は今年

で9回、今回は草月流華道グループの

協力で生け花と併催でした。今年の干

支にちなんで、書、花、ともに「鳥」

をイメージした作品群でした。

初日には眞下先生の席上揮毫があり、

会場を流れる音楽とともに特種な筆を

華麗に操る見事なものでした。

前衛書のコーナーでは「火の鳥」が

テーマとなっており、個々の作品は皆

よく研究され多彩で、私は何よりその

作品を通して作者の強く逞しい情熱を

感じました。作品にはそれぞれの意図

が添付されていました。また生け花も個々に素材、造形、特

種な展示方法など全て斬新で、前衛の

小品ともども充分楽しむことができま



展示作品



オープニングセレモニー

分野の異なる書、花、踊が持てる力を最大に發揮して一丸となって協力し、多くの観賞者に感動を与える素晴らしい、そして盛大な書展となっていました。

## 第50回記念

玉松会書展を寿ぐ

下谷洋子

会期＝平成29年2月28日（火）

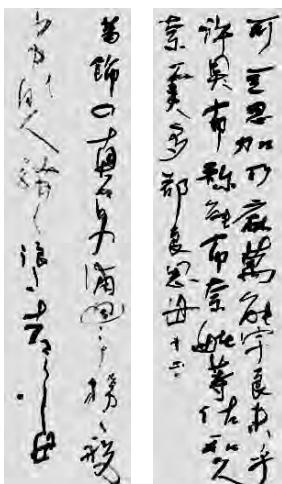
～3月5日（日）

会場＝東京銀座画廊・美術館

一瞬、心が洗われるような爽快感だった。巻子『箏曲夢殿』永井幸子先生の気持ちよいほどのすつきりした造形と散らし。そう、これだったー遠い記憶を手繰り寄せ、ただただ見入った。

柔らかな明るい日差しが春の到来を感じさせる初日、玉松会の第50回記念展にお邪魔した。永井先生がお亡くなりになって25年、会員同士で支え合いながら（石井会長の弁）迎えた50回展である。遺墨は7点、その中の一つが冒頭の作品であった。

永井先生は68歳でお亡くなりになつたので、今回の遺墨を拝見して、改め



永井幸子先生遺作「かつしかの…」



書展風景

てかなりの早熟（永井先生失礼！）な方だったと思った。作品の完成度がすごく高い。書とはその人の性格や生き様まで露呈してしまうようだ。江戸っ子の歯切れのよい話し方、内田鶴雲先生の影響もさることながら、先生のものの作品は、今にしても斬新で、ゆとりのある運筆が美しい。

会員も、それぞれの師への思いを熱く秘めて制作していた。思い出の中の師の姿、会えない分だけ慕るのかもしれない。とは言え、玉松会も新世代が多くなってきている。これからそのままぞれぞれが、また新しい師のもとで師の大きな存在を感じつつ、玉松会と言う空気を吸って自らのかなを目指して行く。生まれて来る、趣を異にするかなどがどんなものになるのか、そんなことを勝手にめぐらせながら、50年と言う年月の中での師弟の関係に思いを馳せた。

玉松会の、今後益々のご盛会を心からお祈り申し上げます。

した。

## 第70回記念書道芸術院展

〈併催 = 第68回全国学生書道展〉

### 〈半紙の部 大賞作品〉



(中) 川名舞乃



(中) 小原桃果



(小) 楠瀬桃花



(高) 中村玲菜



(高) 越後谷巴音

ごあいさつ

公益財団法人書道芸術院理事長 辻元大雲

本年68回目を迎えた全国学生書道展は、半紙部門と半切引部門の2部体制もほぼ定着してまいり、今回展では半紙部門で若干の減少となりましたが、半切引部門の出品が増加し、トータルで100点以上の出品増となりました。生徒の皆さん、ご指導いただいた先生方、ご家族の方々に厚くお礼申し上げます。その関係で半切引部門のA賞を若干増加し、半紙部門とのバランスを取りました。

作品内容は半紙部門では自由課題としましたが、それぞれの学年にふさわしい内容でいずれも丁寧で着実な作品が多く感心しました。半切引部門では小中学生は課題二文字での応募でしたが、皆さんよく練習されしっかり安定した作品が多かったと思います。

高校生・大学生部門は両部門とも自由制作でしたが、古典臨書・創作とも誠に多彩でレベルの高い作品が多く、努力の跡がよく見られました。審査では公平かつ暖かい配慮もしながら、一点一点丁寧に拝見して各賞を決定しました。受賞された皆さんは今回の受賞を励みとして、受賞を逃した方も次回に向けて更に頑張ってください。終わりにご指導いただいた先生方、ご支援ご協力くださったご家族の皆様方に厚くお礼申し上げます。

△半紙の部 準大賞作品 △

ほん

ねこか

秋冬

自然の恵み

芸術の秋術

小二

吉本  
あんり

(小) 都 積 加 鈴

小五

萩原里枝

(小) 萩 原 里 枝

一年

菊池瑛斗

(中) 菊 池 瑛 斗

中一

武内  
美 優

(中) 武 内 美 優

旅宇行宙

相高之倚

久保由梨奈

寶渴以等

潤澤反暖

中二

畠中  
ひより

小池  
美貴

久保  
由梨奈

高岡  
美耶

澤田  
奈夜

## 〈半切 $\frac{1}{2}$ の部 大 賞 作 品 〉



(高) 安 住 優 麻



(中) 浅桐真子



(小) 石 原 きらら

## 〈半切½の部 準大賞作品〉



(中) 川名葵



(小)一瀬莉久



(高) 松田美春



(高) 梅津美憂



(中) 中澤 遙

第68回 全国学生書道展

「指導者作品展」役員作品



「宏」 顧問 香川倫子



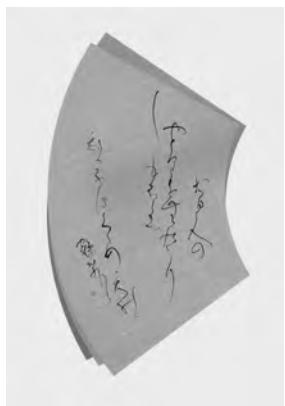
「拾」 遺作 恩地春洋



「慈」 顧問 村野大仙



「道」(古璽)  
顧問 小伏竹村



「旅人の」  
常務理事 下谷洋子



「寿鶴」 理事長 辻元大雲



「人生」  
常務理事 小竹石雲



「照見五蘊皆空」(般若心経より)  
常務理事 後藤大峰